

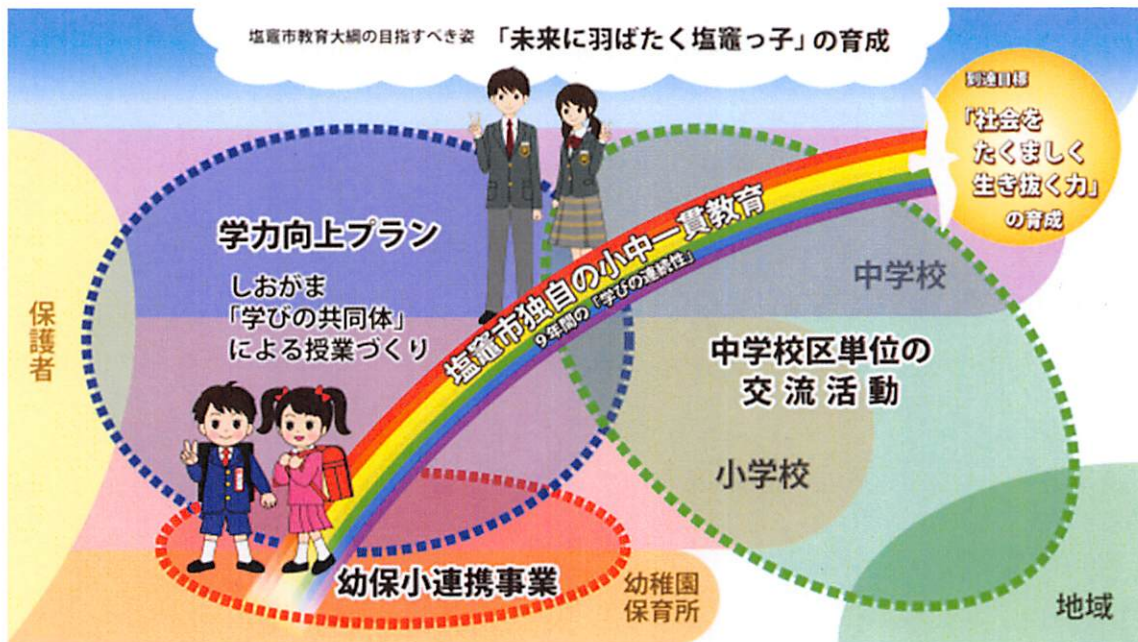
## 子どもの教育に関わる主な取組みについて

### 1. 子どもの夢を育むまちづくり

#### (1) 学力向上、学習支援の取組み

学びの共同体、しおがまチャレンジ教室、コラソン

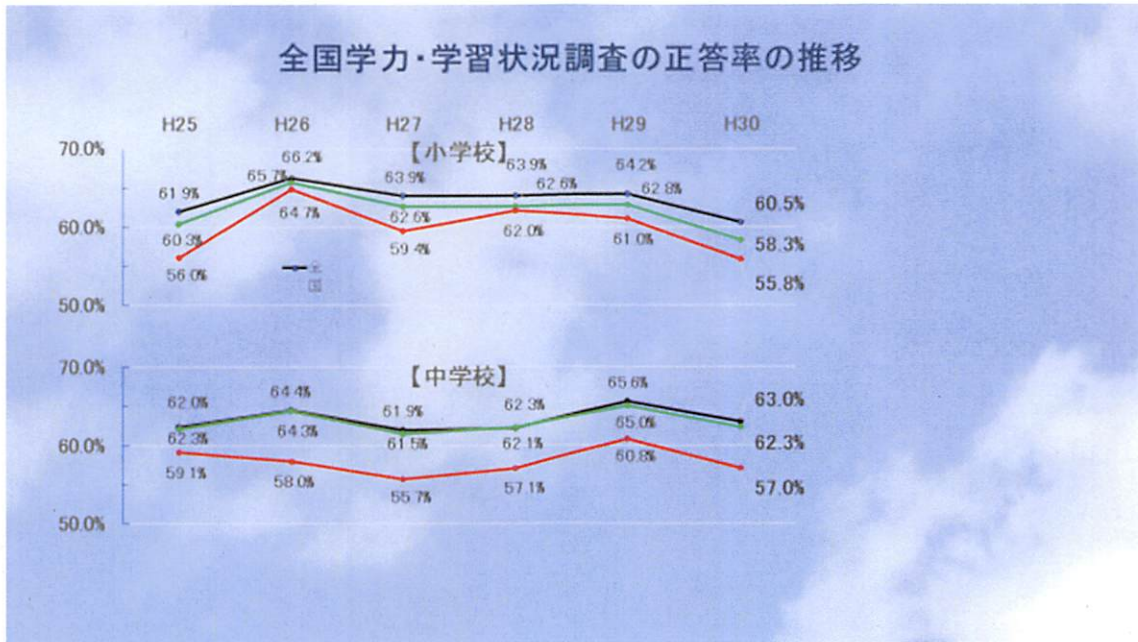
## 本市の学力向上・学習支援の取り組み



学校教育課

# 1 本市の学力向上対策

## (1) 全国学力・学習状況調査の正答率の推移



小中学校共に、国語・算数（数学）のA・B問題の平均正答率において、全国平均・県平均を上回ることができていない。

<平成30年度の結果>

- 小学校 全国平均との差 - 4～6ポイント（0.4～0.7問差）
- 県平均との差 - 2～3ポイント
- 中学校 全国平均との差 - 3～8ポイント（0.4～2.3問差）
- 県平均との差 - 4～8ポイント

## (2) 第4次塩竈市学力向上プラン

# 本市の学力向上対策



### ①3つの視点による授業改善

どの子にも「分かる・できる」喜びを味わえる授業づくりを行う

- ・主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点
- ・ユニバーサルデザインの視点
- ・交流（児童生徒間交流・教師間交流）の視点

### ②家庭における学習習慣づくり

学校・家庭・地域が一体となった「学びの環境づくり」を推進する

- ・メディア・スマホ依存対策

〈アルカス塩竈〉  
小中学生が「メディア・スマホ  
対策」について話し合い



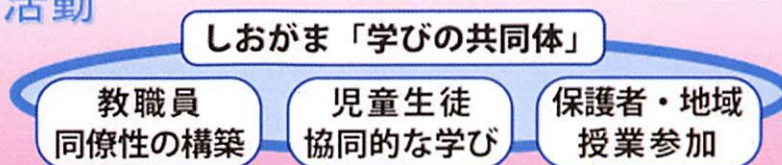
### (3) 平成31年度 しががま「学びの共同体」による授業づくり

## 学力向上プラン

授業づくり「活躍する場」や「交流する場」を設定し、すべての児童生徒が「できる・分かる」喜びを味わえる授業を目指す。



## しががま「学びの共同体」 による授業活動



「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」を実現するため、旧来型の「一斉授業」から「協同的な学びの授業」へ転換を図り、児童生徒も教師も保護者も、互いに学び合う場所にする「学びの共同体」として組織。

### 「SDGs」持続可能な開発目標

「誰一人取り残さない社会の実現」を目指し、2015年 国連で採択「質の高い教育をみんなに」（17の目標 目標4：教育）  
→学び合いを通じた質の高い教育の実現「みんなで支えるみんなの学び」  
(Learning for All, All for Learning)

#### ①平成31年度(令和元年度)の目標

- ・各校に「モデルとなる教員」を育成する
- ・各校に「学びの共同体の活動システム」を定着させる

#### ②平成31年度具体的取組

<組織>

- ・各学校に「しががま『学びの共同体』推進委員会」を設置  
\*市教育委員会に事務局を置く

<人財育成>

- ・「しががま『学びの共同体』推進委員（塩竈市教科等指導員）」の推薦  
\*各校2名（浦戸1名）  
→転入職員のためのモデル授業（5月～6月） \*各校で実施

<授業研究会>

- ・年間を通じた授業研究会を計画・実施
- ・公開授業研究会（パイロットスクールで年1回ずつ実施）\*HPに掲載

**資料1** 平成31年度 外部講師を招いた授業研究会一覧

1. パイロットスクール

学校名	実施日	講師
第一小学校	1学期： 6月24日（月）	森田 智幸 先生
	2学期： 9月13日（金）（公開研究会の予定）	
	3学期： 2月21日（金）	
第三小学校	1学期： 5月22日（水）	佐藤 雅彰 先生
	1学期： 6月 5日（水）	金田 裕子 先生
	2学期： 11月 6日（水）（公開研究会の予定）	
	3学期： 1月28日（火）	
第三中学校	1学期： 7月 2日（火）	金田 裕子 先生
	2学期： 未定（校舎改築工事のため）	
	3学期： 2月10日（月）	

2. 各小・中学校（パイロットスクール除く）の授業研究会（1学期）の日程

学校名	実施日	講師	授業研究会
第二小学校	6月28日（金）	塚本 桂子 先生	校内
月見ヶ丘小学校	6月18日（火）	永島 孝嗣 先生	校内
杉の入小学校	6月20日（木）	坂本 篤史 先生	校内
玉川小学校	5月31日（金）	永島 孝嗣 先生	校内
第一中学校	7月 8日（月）	佐藤 雅彰 先生	中学校区
第二中学校	7月11日（木）	佐藤 学 先生	中学校区
玉川中学校	5月21日（火）	佐藤 雅彰 先生	中学校区
浦戸小中学校	5月20日（月）	佐藤 雅彰 先生	中学校区

※パイロットスクールを除く小・中学校に、外部講師を年に1回招いて授業研究会を行う。

3. 中学校区授業研究会

中学校区	実施日	講師	実施校
第一中学校区	7月 8日（月）	佐藤 雅彰 先生	第一中
第二中学校区	7月11日（木）	佐藤 学 先生	第二中
玉川中学校区	5月21日（火）	佐藤 雅彰 先生	玉川中
浦戸中学校区	5月20日（月）	佐藤 雅彰 先生	浦戸小中

#### 4. 小中一貫教育全体研修会

研修会名	実施日	講師	会場
小中一貫教育 全体研修会	8月21日(水) 午後	金田 裕子 先生	壺番館遊ホール

#### [外部講師]

佐藤 学 様 学習院大学 文学部特任教授  
 佐藤 雅彰 様 富士学びの工房  
 塚本 桂子 様 牛久市教育委員会 指導主事  
 坂本 篤史 様 福島大学大学院 人間発達文化研究科 准教授  
 永島 孝嗣 様 麻布教育研究所  
 森田 智幸 様 山形大学大学院 教育実践研究科 准教授  
 金田 裕子 様 宮城教育大学 教職大学院 准教授



#### (4)学力向上マネジメント支援事業(県委託事業)

##### ① 趣旨

本県の課題である学力向上に取り組むに当たり、困難を抱えている地方の拠点都市に対して、宮城県教育委員会と当該拠点都市の教育委員会が連携し、継続的・重点的に学力向上対策を推進するものです。

- ・当該拠点都市の教育委員会が設置する小・中学校のモデル校における PDCA サイクルに基づく3年間の授業改善等の実践を通して、学力向上のための PDCA サイクルのモデルを確立する。
- ・本事業で得られた成果を基に、学力向上マネジメントみやぎ方式を構築し、県内市町村への水平展開を図り、本県の公立小・中学校における学力の全体的な底上げを推進する。

##### ② 実施期間

平成31年度から平成33年度までの3年間

##### ③ 事業の内容

###### (ア) 支援事業地区の指定

○地方拠点都市の4市教育委員会を支援事業地区に指定 (塩竈・白石・大崎・石巻)

###### (イ) 支援事業地区において行う事業

- ・「学力向上対策基本方針」を作成する。
- ・事業内容は、4つの必須項目及び市の実態、要請に応じて実施する。
- ・対象教科は、小学校では算数、中学校では数学。
- ・実践の成果と課題の検証に当たっては、経年比較が可能な定量的なデータを示せるよう努める。翌年度の「学力向上対策基本方針」及び「事業計画書」の見直しを図る。
- ・支援事業地区は、「市学力向上推進委員会」(年3回程度)を設置し、以下の取組を行う。
  - \* 中学校区モデル校の取組状況等についての報告及び情報共有
  - \* 学力向上対策のより効果的・効率的な実施に向けての協議 等



④ 本市の取組内容

(ア) モデル校 (本市は、すべての小中学校)

第一中学校区 (第一中 第一小 第二小)

第二中学校区 (第二中 杉の入小)

第三中学校区 (第三中 第三小)

玉川中学校区 (玉川中 玉川小 月見ヶ丘小)

浦戸中学校区 (浦戸中 浦戸小)

(イ) 事業の内容

<必須項目>

**ア 標準学力学習調査年 2 回 (4 月と 12 月に実施)**

- ・標準学力調査 (算数・数学) [東京書籍] \*全児童生徒対象

**イ 全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた授業改善**

- ・自校の課題を明確にし、それらを解決するための授業改善を、校内研修等を通して全職員で取り組むとともに、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。

**ウ カリキュラムマネジメントの工夫**

- ・2 月までに教科書の内容を終える年間指導計画を立て、3 月は苦手分野克服期に充てる教育課程の編成の工夫を行う。

**エ 小中連携の取組**

- ・9 年間を見通した教育内容の検討や授業の約束、生活の約束を共有する。
- ・教育事務所指導主事や総合教育センター指導主事を活用し、校種を超えた授業研究会を実施したり、全国学力・学習状況調査の課題を共有したりするなど、小中連携の取組を充実させる。

<選択項目>

**オ 市町村の実態、要請に応じて実施する取組 (選択制)**

本市独自の小中一貫教育及びしおがま「学びの共同体」による授業づくりとの関連から次の 3 点を選択する。

**・授業力向上研修会の実施**

\*大学教員等、外部講師を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりに関する全体研修会及び各小中学校での授業研究会を実施する。

**・授業づくりのための先進地域への研修視察**

**・学級集団診断テストの実施 [Q-U 調査]**

## (5) 平成31年度全国学力・学習状況調査対策

### ①年間計画に基づいた対策

- ・平成30年度の問題を使用し、2学期に2回、3学期に1回、試験を実施する。
  - \*同一問題に取り組みせながら、試験の形式や問題に慣れさせ、その都度、丁寧な解説・補充学習を行うことによって、自信をつけさせる。
  - \*3月にすべてが既習となった時点で、再度テストに取り組みせる。
    - 小5・中2までの「学習内容の総括(全体の振り返り)」に活用する。

### ②学力向上ヒアリング

- ・各学校を巡回し、①の取り組み状況等を確認する。
  - ほとんどの児童生徒は、1回目よりも、2回目の試験の結果が向上した。「自信がもてず、テストをあきらめている児童・生徒への意欲づけ・意識づけにつながった」

## (6) 成果検証

### 成果

#### (1) 授業満足度

授業満足度(国語・算数・数学) \* 平成30年度12月調査

小学校 **90%** (H29 85%)

中学生 **83.3%** (H29 80%)

#### (2) 学級生活満足度(Q-U調査)

「学級満足度」全国値を上回った学級 \* 平成30年度3学期

小学校 80学級 / 82学級中 **98%** (H29 1学期 59%)

中学校 38学級 / 41学級中 **93%** (H29 1学期 83%)

#### (3) 不登校出現率

不登校出現率 \* 平成29年度

小学校 **0.33%**(全国 0.54% 県 0.66%) H30 **0.43%**

中学校 **3.86%**(全国 3.25% 県 4.3%) H30 **3.48%**

\* 中学1年生の不登校生徒数:前年度比 **30.8%減少**

#### (4) 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査 平均正答率 \* 平成30年度

小学校(国語・算数) 全国平均比 **-4~-6ポイント**

中学校(国語・数学) 全国平均比 **-3~-8ポイント**

## 2 本市の学習支援対策

### (1) しおがまチャレンジ教室

#### ①概要

東日本大震災による被災の程度が大きく、また経済的に生活が苦しい家庭の中学生が自主的に学習できる場を提供するため、「しおがまチャレンジ教室」を実施します。

#### ②ねらい(効果)

学習環境の改善を図り、復習を中心とした自主学習を支援することで、一人ひとりの学びのスタイルを確立させます。

#### ③実施概要(平成31年度)

- 実施場所 本塩釜教室（塩竈市海岸通10番18号小松ビル2階）  
けやき教室（塩竈市公民館本町分室）
- 実施期間 平成31年4月19日から翌年3月31日まで
  - ・本塩釜教室 毎週火、木曜日
  - ・けやき教室 毎週月、水曜日 ※年間40週程度
- 実施時間 午後6時から午後7時30分  
(時期によって変更の可能性あり)
- 登録生徒 本塩釜教室32名（定員25名）  
けやき教室20名（定員15名）
- 対象生徒 被災就学援助受給世帯、要保護世帯または準要保護世帯に該当する中学生の希望者

#### 【参考】平成30年度

- ・被災就学援助児童生徒51名
- ・要保護児童生徒12名
- ・準要保護児童生徒319名
- 合計382名

- 支援体制 各教室に2名の指導員を配置
- 支援内容 ①自主学習を基本に、指導員が復習を中心として一人ひとりに合わせた勉強の仕方を教える。  
②教科書を使用して学習を進めていくが、必要に応じて、問題集（無料配布）や課題学習プリントを使用する。

#### ④これまでの経過

年度	実施概要	登録生徒数（人）		
		けやき	本塩釜	東塩釜
H27	東大寺からの寄付金を活用し、震災で住居を失い仮設住宅等に入居する中学生を対象に、けやき教室で実施	7	未開設	未開設
H28	東大寺のほか、株式会社佐浦からの寄付金を加え、さらに対象を被災就学援助世帯や要保護・準要保護世帯に拡大するとともに、教室も市内3か所に増設	21	30	12
H29	東大寺からの寄付金を活用し、引き続き3教室で実施	16	25	12
H30	東大寺からの寄付金を活用しながら、東塩釜コラソンの閉所に伴い2教室で実施	18	32	未開設

#### ⑤進路状況(平成30年度)

しおがまチャレンジ教室に参加した中学3年生10名の進路状況

- ・ 鹿島台商業高等学校（3名）
- ・ 塩釜高等学校（1名）
- ・ 白百合学園高等学校（1名）
- ・ 聖和学園高等学校（1名）
- ・ 仙台育英学園高等学校（1名）
- ・ 松島高等学校（1名）
- ・ 貞山高等学校（1名）
- ・ 広島県福山市立東中学校（1名）

#### ⑥事業の課題

開設した当初の1学期は参加率が平均約84.4%と高いが、2学期になると平均約61.3%に下がった。3学期は、3年生が受験期になり、また、インフルエンザの流行もあり、47.2%に更に参加率が低下した。



**(2) 塩竈市学びの支援センター「コラソン」及び学び適応サポートルーム  
(塩竈市子どもの心のケアハウス事業)**

**①目的**

心の問題等により、学校生活に困難がある児童生徒の学び場と、学校復帰や社会的自立を目指す児童生徒の居場所づくりを行うために、個別的な支援を中心に、学習意欲・自立心・社会性等を育て、学校生活への復帰を目指します。



製作作品 (桜の枝の鉛筆)

**②平成 30 年度の事業実施概要**

**<塩竈市学びの支援センターコラソン>**

コラソンには、スーパーバイザー 2 名及び学び・適応サポーター 1 名を配置しています。通所する不登校児童生徒に対し、個別的な支援を行い、学校復帰を目指します。

**<学び・適応サポートルーム>**

学び・適応サポートルームを市内各小中学校(浦戸を除く)に設置し、学校不適応の児童生徒(別室登校も含む)に対する学習支援や相談活動を行います。サポートルームには、学び・適応サポーターを各校 1 名配置しています。

**③事業実績**

コラソンの月ごとの開所日数、通所者数(総計は延べ人数)(単位:日、人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総計
30年度	開所日数	15	21	21	21	18	18	18	20	20	17	19	20	228
	通所者数	1	3	3	5	6	7	7	10	11	11	11	11	86

※通所者のうち 1 名は、塩竈市外からの通所です。

学び・適応サポートルームの月ごとの来室者数(総計は延べ人数)(単位:人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総計
30年度	来室者数	21	23	34	27	28	35	43	39	38	41	43	38	410

#### ④活動内容

- ・コラソンでは、学校や保護者との連携を密にしながら、一人一人の児童生徒の心身の状態やニーズに応じて「個別の支援計画」を策定し、その計画に基づき、①学習支援（教科学習、製作活動、体験活動等）、②相談活動、③適応支援を行っています。
- ・コラソンでは、教科学習に加えて、地域での奉仕活動、社会体験学習、運動、創作等をタイムテーブルに位置づけています。これらの活動を通して、基礎的生活習慣やソーシャルスキルを身に付け、自信を回復して、学校復帰につなげる活動を展開しています。**平成30年度は7名が学校復帰を果たしています。**
- ・学び・適応サポートルームは、登校はできるけれども、教室に入れない児童生徒の居場所として、安心して学習に取り組める状況を作っています。**平成30年度は、実人数で86名の児童生徒への支援を行い、そのうち25名が教室復帰しました。**



小学生が中学校の合唱コンクールに飛び入り参加（三小・三中）